

第 16 話〈没落譚〉の要約と参考資料

第 16 話〈没落譚〉の要約

三弥長者の致福譚は突然、没落譚に転じます。三弥の栄華と没落は大阪にも聞こえ、井原西鶴は三弥をモデルにした「国に移して風呂釜の大臣」という小説を書きました。大富豪をうみだした日向の銀山はどの広さもち、どんな操業をしていたのでしょうか？

第 16 話〈没落譚〉の参考資料

16-1 守田三弥の没落

土呂久で語られていた民話「夢買い山弥」の後半

山弥が府内に建てた豪邸は、天井が南蛮渡来のギヤマン張りで、その上に水を張り、色とりどりの金魚を泳がしておった。ある日、殿様が家来を連れて山弥の屋敷へやって来た。山弥は南蛮の珍しい品々を見せたあと、殿様をギヤマン天井の部屋に案内した。その部屋で、山弥はごろっと仰向けに寝ころがったかと思うと、足を高くあげて金魚をさし示し、殿様に説明を始めた。「無礼者め！」。山弥の態度にえらい怒った殿様は、山弥がどんなに謝っても、許そうとはせざった。とうとう殿様は山弥の財産をとりあげて、四いどこまで一族をみな打ち首にしてしもたげな。それからじゃ。このあたりの鉾山では、鉾石を運ぶときに「ヨイトコサンヤ」の掛け声が聞かれるごつなつた。

16-2 三弥による近隣鉾山の開発

佐藤三代士さんの話（1983年1月28日）

山弥時代はいっぱい採掘したらしい。鉾脈の通つとる所はどこでも。見立までも山弥さんは掘ったらしいよ。見立、尾平、土呂久、鉾脈がつづいとる。これをみんなたどつて掘ったらしい。鉾脈は東から西へずつと通つとるもんらしいですわ。登尾も昔、掘つたんでしょう。萱野、見立、尾平、とてもですわ。鉾脈のある所をみな手をつけとる。昔の人はえらいですわ。鉾脈の通つとる所は研究して、よう知つとるですわ。

後藤寅五郎述「村のおもかげ」（改訂増補）P97

（三ヶ所鉾山は）大字三ヶ所廻淵にあり廻淵鉾山とも言う。岩戸村土呂久鉾山を発見した豊後の森田三弥の発見せるものと言う。土呂久鉾山の発見されたのは元和2年（336年前）であるから三弥の創始せるものとすれば恐らく其の時代であろう。

伝説によると、森田三弥が当村に始めて足を踏み入れた時、津花峠に立って真正面に見える今の稲荷坑の上山神社の所を遥かに眺め、あそこには必ず鉾石があると言って廻

淵に行ったら果して鉱石を発見したと言う。

福岡通産局鉱山部編「九州の金属鉱業」P5~6より

豊臣、徳川時代（17世紀と18世紀）に発見された主要鉱山のうち、日向国西臼杵郡岩戸村の鉱山を書き出すと。

鉱山名	鉱種	発見年代	西暦年
外録	錫、鉛	慶長年間	1596~1614
登尾	錫	元和元年	1615
黒葛原	鉛	元和6年	1620
洞獄	鉛	寛永3年	1626
大福（見立）	錫	寛永8年	1631
見立	金、銀	元禄年間	1688~1703
椿原	鉛、銅	享保7年	1722
合屋	錫	寛政元年	1789
重内	錫	文化11年	1814
萱野	鉛	不詳	